

◆ 妊娠糖尿病の既往女性がリスク因子を修正することで2型糖尿病発症のリスクが減らせるか：前向きコホート研究

Modifiable risk factors and long-term risk of type 2 diabetes among individuals with a history of gestational diabetes mellitus : a prospective cohort study.

Yang J et al.

BMJ 378 : e070312, 2022

背景 妊娠糖尿病(GDM)は、妊娠中に血糖値が高くなる病態であり、GDMを経験した女性は将来的に2型糖尿病(T2D)を発症するリスクが高まることが広く認識されている。修正可能なリスク因子とT2D発症の関係性について明らかにすることで、GDM既往のある女性がT2Dの発症を予防できる可能性が考えられる。

目的 研究の目的は、GDMの既往がある女性において、修正可能なリスク因子とT2D発症の関連を評価することである。

方法 GDMの診断を受けた女性4,275人を対象とした前向きコホート研究を行った。

修正可能なリスク因子として、① 過体重・肥満ではない(BMI<25)、② 質の高い食事(修正代替健康食指数の上位5分の2)、③ 定期的な運動(150分/週以上の中強度の運動または75分/週以上の高強度の運動)、④ 適度なア

ルコール摂取(5.0~14.9g/日)、⑤ 非喫煙、の5つを挙げ、GDMの診断後、これらの因子の修正の数と追跡期間中のT2D発症との関連を分析した。

結果 追跡期間の中央値27.9年(8万9,340人/年)の時点で、924人がT2Dを発症した。解析の結果、肥満(BMI $\geq$ 25)、不規則な運動、高カロリーの食事がT2D発症リスクの主要なリスク因子であることが明らかとなり、特にBMIが高い群はリスクが有意に増加し、運動習慣がある群はリスクが有意に低下していた。

結論 GDMの既往をもつ女性における変更可能なリスク因子がT2Dの発症に影響しており、特に体重管理や定期的な運動、健康的な食事がT2D予防において重要である。GDMを経験した女性を対象とした健康介入プログラムの設計に役立つことが期待される。

(宮崎大学医学部附属病院産婦人科 吉本 望 抄)

◆ レボノルゲストレル放出子宮内システムと婦人科がん、乳癌との関連：スウェーデンにおける全国コホート研究

Association of levonorgestrel-releasing intrauterine device with gynecologic and breast cancers : a national cohort study in Sweden.

Yi H et al.

Am J Obstet Gynecol 231 : 450.e1-e12, 2024

背景 レボノルゲストレル放出子宮内システム(LNG-IUD)は、過多月経や月経困難症の治療および避妊目的で広く使用されている。しかし、LNG-IUDの使用と婦人科がんおよび乳癌のリスクとの関連については、まだ結論が出ていない。

目的 LNG-IUDの使用が特定の部位の婦人科がん、乳癌のリスクに有意な関連があるかどうかを調査することを目的とした。スウェーデンの全国登録データを用い、がんの家族歴がリスクに与える影響も考慮した。

研究デザイン 2005年7月~2018年12月までにLNG-IUDを使用した18~50歳の514,719人の女性をスウェーデン処方薬登録簿から特定し、LNG-IUDを使用していない1,544,157人の比較対照者と1:3の比率でマッチングした。傾向スコアを計算し、LNG-IUD使用者と比較対照者間でマッチングを行い、追跡期間はLNG-IUDの最初の処方日から、がん診断日、死亡日、または研究終了日までとした。コックス比例ハザードモデルを用いてハザード比(HR)と95%信頼区間(CI)を計算し、相互作用

についても評価した。

結果 LNG-IUDの使用は乳癌のリスクを13%高めることが示された(調整HR 1.13, 95%CI 1.10-1.17)。一方、子宮内膜癌のリスクは33%低下し(調整HR 0.67, 95%CI 0.56-0.80)、卵巣癌のリスクは14%低下(調整HR 0.86, 95%CI 0.75-0.99)、子宮頸癌のリスクは9%減少した(調整HR 0.91, 95%CI : 0.84-0.99)。乳癌では、LNG-IUDの使用とがんの家族歴との間に有意な加法的交互作用があり、相互作用による相対的過剰リスクは19%($p<0.002$)であり、10,000人年あたり1.63の追加症例が見込まれた。

結論 LNG-IUDの使用は、乳癌のリスクは小さいものの、特定の癌に対して異なる影響をもつことが明らかになった。LNG-IUDの使用に際しては、その利点とリスクを慎重に評価する必要がある。乳癌の家族歴がある女性については、乳癌の発生を注意深く監視することが重要である。

(宮崎大学医学部附属病院産婦人科 藤崎 碧 抄)